平成 19 年 10 月 3 日

読み継がれる、小川未明『金の輪』絵本展
～吉田稔美の世界～開催！！

文化の秋！雑司が谷旧宣教師館築百周年事業で　歴史に触れ、心あたたまる

本日３日（水）から、雑司が谷旧宣教師館で「読み継がれる、小川未明『金の輪』絵本展～吉田稔美の世界～」が始まっている。

旧宣教師館は、雑司が谷文化を知るための展示・講座など様々な催しを開き、また、地域住民の文化交流の場として活用されている。今年はマッケーレブ邸が建築されて 100 年目を迎える節目の年で、本事業も記念事業として行なわれる。これは、区ゆかりの児童文芸誌『赤い鳥』で活躍した小川未明の童話『金の輪』を絵本化して蘇らせた吉田稔美さんの絵本展。展示作品はクレヨンと版画の混合技法でジークレー制作によるもの。館内には 15 点のパネルが展示され、他にも、ジオラマ作品があって楽しめる。

吉田さんはイタリア・ボローニャ国際絵本原画展入選者で『ネバーガールズ』『ルネサンス踊り絵本』（架空社）などの作品を多数出版している。また、吉田さんの講演会が、13 日（土）と 11 月 10 日（土）に同館で行われ、原画展は 11 月 25 日（日）まで開かれる。

日　　時	１０月３日（水）～１１月２５日（日）午前９時００分～午後４時３０分 ＊休館日：毎週月曜日、第３日曜日、祝日の翌日　　＊入館無料
場　　所	雑司が谷旧宣教師館（雑司が谷１－２５－５）
展示の様子、参加者の声など	雑司が谷に住んだ小川未明は“日本のアンデルセン”　“日本児童文学の父”ともいわれ、ロマン、詩情、ヒューマニズムで幻想的な作品を多く残している。 『金の輪』は小川未明の代表作で、自身、幼くして二人の子どもを亡くしており、そのことがあってこの童話は書かれた。絵本作家の吉田稔美さんは未明が生きた時代を偲びながらも、子どもの魂のためにこそ書かれたこの童話は、古びることのない美しい詩であり、現代から未来へ、子どもたちに手渡していきたいものとして読み継がれることを願って絵本化したという。 吉田さんは「小川未明とゆかりのある雑司が谷の地で絵本展を開催することはとても光栄です。作品を見ての感じ方は人それぞれの解釈があってよいと思います。絵本に書かれているような年頃の子どもたちにぜひ来て欲しいですね」と話してくれた。
補足事項	雑司が谷旧宣教師館は、1907 年にアメリカ人宣教師ジョン・ムーディ・マッケーレブが自宅用に建てた木造 2 階建ての洋館で、区内最古の洋風建築物。昭和 62 年区有形文化財第 1 号に、平成 11 年には都指定有形文化財に指定された。
	『赤い鳥』は、大正デモクラシーを背景として大正 7(1918)年７月に、当時夏目漱石門下の鈴木三重吉が、豊島区目白で創刊した月刊の児童文芸誌。数多くの童話童謡を掲載し、わが国の近代児童文学の基礎を築いた。
写　　真 ＊写真はメールで送ります	絵本作家 吉田さん
問　合　せ	雑司が谷旧宣教師館